

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00364

研究課題名（和文）中華民国期の越劇におけるメディア・観客の位相に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Media and Audience Phases in the Yue Opera of the Republic of China

研究代表者

藤野 真子（FUJINO, Naoko）

関西学院大学・商学部・教授

研究者番号：20332653

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、メディアおよび観客との関係性に注意を払いつつ、新聞や雑誌に掲載された文字資料や画像資料、脚本、唱本を用い、中華民国期における越劇の具体的発展の様相を明らかにした。研究を進めるにあたって国内外で各種資料を調査する予定であったが、コロナ禍により、初年度・2年目の上海図書館の調査にとどまった。また、越劇、および同時期に影響関係を持った上海京劇等に関し、国内の研究会で発表を行い、関連論考を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、越劇を視覚的・聴覚的に記録し、同時に発信も行った新聞・雑誌等を中心とするメディア、および脚本・唱本といった出版物と、それを受容する層（＝観客）との相関性を重視するという観点に基づき、越劇の発展形態の分析を行ったものである。それにより、中国都市部における伝統演劇史における越劇の位相を、従来より複層的に捉える必要性があることを提示した点において、学術的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：This study used written and graphic materials published in newspapers and magazines, libretto, and songbooks, paying attention to the relationship with the media and the audience, to clarify specific aspects of the development of Yue Opera in the Republic of China period. Although I had planned to survey various materials in Japan and abroad in the course of my research, due to the Covid-19 disaster, I was limited to the Shanghai Library in the first and second years of my research. In addition, I made presentations at domestic research groups on Yue Opera and Shanghai Peking Opera, which were influential during the same period, and published articles.

研究分野：中国文学

キーワード：越劇 中国演劇

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国の中国伝統演劇研究は京劇を中心に展開してきた。本研究の研究代表者は、「京劇史研究会」の活動を中心に、近現代伝統演劇資料の訳注と伝統演劇関連研究の発表を柱とし、継続的な活動を行ってきた。これまでも基盤研究(C)「新中国建国前後における伝統劇の多角的研究」(平成18・19年度科学研究費補助金、課題番号:18520273、研究代表者:松浦恆雄)、基盤研究(C)「二〇世紀中国演劇における「記録」とメディアの多角的研究 劇評・新聞・図像を中心に」(平成24~26年度科学研究費助成事業、課題番号24520412、研究代表者:藤野真子)、基盤研究(C)「二〇世紀中国演劇上演実態の「記録」に関する研究 メディアとの影響関係を中心に」(平成27~29年度科学研究費助成事業、課題番号15K02447、研究代表者:藤野真子)、基盤研究(C)「中国伝統劇の動態的研究:メディア、流通、民間」(平成31~令和3年度科学研究費助成事業、課題番号:19K00382、研究代表者:三須祐介)において、定期刊行物、特刊等の文字メディアのみならず、写真、映像、音声を「記録」と見なし、これらの分析を行うことで二〇世紀前半の中国演劇の諸相を明らかにしてきた。

(2) 他方、地方劇に関する国内の研究はまだ十分とはいえない状況にあった。越劇に関しては、中華人民共和国建国以後の演目論、ジェンダー的視点に基づく劇作論があるが、いずれも現代中国の上演状況を踏まえた分析である。また松浦恆雄による特刊および新越劇に関する研究は、越劇が現行の形を完成させる1940年代以降の活動に主眼を置いている。中国においては、越劇の流行地域である上海および浙江地区を中心に、上海芸術研究所研究員の高義龍による文献と関係者への取材を踏まえた諸研究を嚆矢として、演劇史的側面に重点をおいた研究が蓄積されている。また近年では、華東師範大学歴史系教員の姜進による歴史学および都市文化的視点からアプローチした諸研究が注目されている。本研究の研究代表者も、1995~1997年の上海留学期間より、中華民国期の京劇、越劇に関する資料の収集に努め、高義龍から中国における越劇研究の現状について教示を受けている。また2008年上海での在外研究期間において、資料の補足収集および整理を行い、論考として発表した。同時期に越劇出身の宣卷演者・趙華から越劇の訓練および流布状況、姜進から歴史学における越劇へのアプローチ手法について、それぞれ教示を受けた。

2. 研究の目的

(1) 越劇を「記録」する主体と、「記録」する手段の諸形式、および「記録」内容の証明
先行する京劇や崑劇の「記録」は、当初、趣味的な印象批評や、演劇を題材として作品化した雅文が主流であり、書き手の自己表現の一つと見なされていた。1910年代中盤以降、これらの文章は本格的な批評性を備えるようになり、出版メディアの発展に伴って世への発信力を備えるに至った。1930年代に入って本格的な「記録」の対象となった越劇は、先行劇種に比べて大衆的であり、批評性を帯びたもの、芸能人を偶像視するのと同様の娯楽的なものと、異なる性質の「記録」が併存した。この状況は越劇受容層の指向に基づき発生したが、本研究ではまず、研究代表者の京劇研究、および越劇の基礎研究における成果を踏まえつつ、「記録」の担い手と、「記録された言語」の具体的様相について、新聞・雑誌等の同時代資料を用い説明を進める。また、写真や絵画といった図像は、視覚に訴える点においてより直截な演劇の「記録」である。若年の女優を中心とした越劇では、ビジュアル的側面がより重視され、多くの図像が残された。舞台の扮装をした図像には失伝した演目に関するものが見られる一方、平服で写った図像には男装をはじめ女優の役柄を反映したものも見られる。こうした図像がいつ、いかなる形で受容者に消費されることを意図したものなのか、判断・特定し、「記録」の実態とそれが持つ意義とを説明することを通じて、「記録」する側のバックグラウンド、および彼らの意図を浮き彫りにすることを目的とする。

(2) 劇本、唱本(脚本)の出版状況、および演目群の傾向に見る上演状況と観客層の解明
中華民国初期より、京劇では脚本全集の『戲考』や『戲典』が刊行された。これら全集には伝統演目と新作劇の双方が収録され、同時代の上演状況の「記録」と見なす。越劇にも同様の状況が発生し、1930年代末から1940年代にかけて、広益書局をはじめ小規模出版社から脚本集や唱本が出版された。そこには、越劇黎明期の簡素な物語から、都市部での展開に伴い獲得した新作まで、多彩な性格を備えた演目群が含まれている。こうした脚本集は、演目の「記録」ととどまらず、「読み物」としても受容されたと考えられるが、これまで内容的に十分な検討がなされてこなかった。本研究では、まずこれらの編集方針や出版意図に対し分析を行う。同時に出版物の受容者(読者)と演劇自体の受容者(観客)との相関性を考察し、言語面を含めた内容を詳細に分析することで、出身地・社会的階層など受容層の性質の同定と、これらの脚本の具体的な受容状況を説明することを目的とする。

(3) 越劇の流行状況、社会における受容の状況を踏まえた、「都市芸能」越劇の実態解明
越劇は1910年代から1920年代にかけて浙江省から上海へ進出し、1930年代に本格的に定着する。そのおおよその過程については、先行研究においてすでに明らかにされている。もっとも、新聞の上演広告や関連記事による越劇の「記録」を詳細に分析した研究蓄積は、まだ不十分である。こと上述した観客や読者といった受容者に着目し、その視点を反映した研究はまだ少ない。本研究では演劇に加え、歴史学、社会学といった他分野の出版物にも十分目配りした上で、上海など越劇流行地域における出版物等の発掘に努め、民国越劇発展史研究における視点の不備を補うことを目的とする。こうした作業を踏まえ、都市部における越劇受容の具体的様相を明確にし、特異な発展を遂げた背景を解明する。

3. 研究の方法

(1) 資料調査の実施：中国・上海図書館近代文献部、台湾・中央研究院における資料調査の実施。

(2) 国内外研究機関および研究者との連携：早稲田大学演劇博物館、中国戯曲学院（北京）、中国人民大学（北京）の研究者と連携し、国際的評価に耐えうる研究水準を維持する。また、中国文学、中国演劇関連のシンポジウム等において報告を行い、成果を発信する。

(3) 購入・複写した収集資料のデータベース化、および関連論考の紙媒体・WEB上における発表。

4. 研究成果

(1) 関連資料の収集・整理

平成30年度・令和元年度は上海図書館近代文献部において、とりわけ劇本・唱本に重点を置き、閲覧・収集を行った。同図書館においては、関連する同時代の越劇や滬劇、上海京劇といった同時代の伝統演劇に関する新聞・雑誌の閲覧・収集も行った。なお令和2年度以降は、コロナ禍により国内外の移動が叶わなかったため、リプリントを中心とする同時代資料の購入が中心となった。上海図書館にて収集した劇本・唱本は、演じられる物語や時代により大まかな分類を行い、言語に注意を払いつつ内容的な分析を行った。それにより、どのような層がこれらの劇本を受容し、劇場に足を運んだかを判断しうることが明らかになった。

(2) 論考等の発表

本研究においては、論文として都市化した越劇における演目と役柄の関係性を論じた「論越劇老生商芳臣 越劇老生之開拓者」(中国語)、越劇の戯考(脚本集)・唱本と受容者との関係性を論じた「越劇の受容者とテキスト 戯考と唱本 -」、越劇に大きな影響を与え、並行して演じられた上海京劇における刊行物と受容者の関係性を論じた「連台本戯『封神榜』と特刊」、「連台本戯『封神榜』与特刊」(「連台本戯『封神榜』と特刊」の改訂・中国語版)を国内外の刊行物に発表した。また関連論考として、程 筱媛「通俗文芸市場の共同構築：小説、映画から京劇の連台本戯『火烧紅蓮寺』まで」の翻訳を発表した。その他、越劇でも重視された役柄である旦(女形)に関し、京劇俳優の自伝の解題として「程硯秋『身上的事 程硯秋自述』」を発表した。さらに、越劇と上演空間を共有した上海京劇等に関し、九州大学演文庫所蔵の戯単18種の解説、およびコラム「連台本戯」の執筆を行った。

(3) 研究会、シンポジウム等における報告

コロナ禍により、大規模な会合、および国際的なシンポジウム等への参加はかなわなかったが、国内の小規模な研究集会(中国モダニズム研究会2018年度第1回研究例会2018年8月9日 金城学院大学)において、「観るのは“私” 越劇の観客層に関する一考察」と題した研究発表を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤野真子	4. 巻 第113輯
2. 論文標題 連台本戯『封神榜』と特刊	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 戯曲研究	6. 最初と最後の頁 46-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤野真子	4. 巻 -
2. 論文標題 連台本戯『封神榜』と特刊	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国戯単の世界	6. 最初と最後の頁 189-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤野真子	4. 巻 第67巻第4号
2. 論文標題 越劇の受容者とテクスター戯考と唱本一	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 商学論究	6. 最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 氷上正、山下一夫、藤野真子	4. 巻 -
2. 論文標題 論越劇老生商芳臣 越劇老生之開拓者	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地方戯曲和皮影戯 日本學者華人戯曲曲藝論文集	6. 最初と最後の頁 183-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤野真子
2. 発表標題 観るのは“私” 越劇の観客層に関する一考察
3. 学会等名 中国モダニズム研究会2018年度第1回研究例会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------